

---

九州運輸局メールマガジン 平成27年12月10日 第321号

～運輸と観光で九州の元気を創ります～

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

九州運輸局メールマガジンをご愛読くださりありがとうございます。

九州運輸局メールマガジンは隔週の木曜日にお届けいたします。

次回発行日は平成27年12月24日（木）です。

---

## ◆ 目次

### 1 現場レポート

- ・日韓国交正常化50周年記念「九州オルレシンポジウム」を開催しました～日韓のさらなる交流に向けて～
- ・九州産業大学及び大分大学で“物流講座”を開催しました
- ・倉庫業が物資の安定供給に不可欠です～日常生活に必要な物資から災害時の支援物資まで～
- ・各地でバリアフリー教室（研修）開催！～フェリー乗組員や小学生が体験しました～
- ・地元にある海事産業の魅力を知って！～下関市立阿川小学校の全児童を対象に海事施設等見学会を開催～
- ・船員の仕事、やってみませんか？～鹿児島水産高校で出前講座実施～

### 2 お知らせ

- ・今日から年末年始の輸送等に関する安全総点検が始まりました
- ・「公共交通事故被害者等支援フォーラム」を開催します～12月15日（火）13時30分～16時30分：九州運輸局7階海技試験場にて～
- ・クルマとあけよう 未来の扉～福岡モーターショー2015が間もなく開催～
- ・広報誌「国土交通」（2015.12～2016.1）135号が発行されました～特集「自動運転とビッグデータの活用」～

### 3 九州運輸局ホームページアップ情報

- ・報道発表
- ・お知らせ
- ・更新情報

---

## 1 現場レポート

---

- ◆日韓国交正常化50周年記念「九州オルレシンポジウム」を開催しました～日韓のさらなる交流に向けて～

九州運輸局及び（一社）九州観光推進機構は11月20日に福岡市のJR九州ホールにおいて、日韓国交正常化50周年を記念して「九州オルレシンポジウム」を開催しました。

駐福岡大韓民国総領事館 朴総領事をご来賓にお招きし、オルレ関係自治体や日韓のトレッキング愛好者など約300名の皆様にご参加頂きました。

シンポジウムでは「VISIT JAPAN大使」のJR九州ビルマネジメント（株）町社長から「九州と韓国とのさらなる交流に向けて」と題し、「個人と個人の交流が大切で、それが国と国との交流につながっていく。オルレも文化交流の場と

して発展してほしい」とご講演頂きました。

パネルディスカッションでは、韓国側から安・済州オルレ事務局長、九州オルレに造詣が深い韓国の新聞社の孫・中央日報記者が、日本側からは堀江・九州オルレ認定地域協議会副会長（上天草市長）、高橋・九州観光推進機構事業本部長、榎本・九州運輸局観光部長5名をパネリストに迎え、オルレを活用した日韓交流について議論していただき、コーディネーターの千・九州産業大学商学部長から「相互理解と文化交流が今後の日韓の交流を促進する」と結んで頂きました。

九州運輸局は今後も九州観光推進機構と連携を深め、また今回のシンポジウムを契機として、日韓のさらなる交流に向けて、九州がその牽引力となるよう取り組んで参ります。

・九州オルレ新コースオープン

シンポジウムの翌日21日には、九州オルレの新しいコースとして「久留米・高良山コース」が、22日には「南島原コース」の2コースがオープンしました。今回の2コースの追加で九州全体で17コースとなり、今後ますます活性化することが期待されます。

シンポジウム等の模様は次のURLからご覧ください。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_321\\_1.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_321_1.pdf)

（観光部 国際観光課）

---

◆九州産業大学及び大分大学で“物流講座”を開催しました

物流は、わが国の国民生活や経済活動を支える社会的基盤ですが、最近では、特に物流サービスの高度化・効率化への対応が強く求められています。

物流業界でも国際経済情勢などの急速な環境変化の中で、物流システムを支える優秀な人材の確保・育成が大きな課題となっています。

九州運輸局環境・物流課では、学生が物流業界について認識を深め、将来の職業を考える際の参考となるよう、地元大学や物流企業と連携し、物流の重要性や将来性、仕事の魅力などについて“物流”に詳しい方々から講義を受ける、物流講座の開催に取り組んでいます。

この取り組みは、今年で9年目を迎えています。11月10日及び24日には、昨年に引き続き九州産業大学において、ヤマエ久野株式会社より「物流業界及び食品卸企業・物流部門の仕事の現実について」、株式会社ランテックより「物流企業からみた物流システム」について物流の最前線の状況を紹介しつつ、物流の仕組みや現場の映像を交えながら、物流業界について講義をいただきました。

また、11月25日には大分大学において、山九株式会社より「国際物流」について物流の最前線の状況を紹介しつつ、講義をいただきました。

大分大学では、5月に開催した前期講座に引き続き今年度2度目の開催となりました。

3講座ともに学生の皆さんは熱心にメモを取りながら聴講し、講座終了後には、学生から講義内容や物流業界の今後の展開などについての質問が出されました。また、講座後のアンケートでは、「物流のイメージが変わった」、「物流に興味

が出た」、「実際に働く方の声が生で聞けた」、「物流についてもっと知りたいなど興味を持てた」など、企画者として大変うれしい感想を聞くことができました。

学生の皆さんには、講師の現場における“生の声”や戦略的な企業の取組状況を聞いていただくことで、物流業界に興味を持ってもらい、物流業界を含めた就職活動の幅を広げてもらえたらと考えています。

今後とも、物流業界を担う人材の発掘に向けて、関係者の方々と連携を深めて参ります。

講義の様子は次のURLからご覧になれます。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_321\\_2.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_321_2.pdf)

(交通政策部 環境・物流課)

---

#### ◆倉庫業が物資の安定供給に不可欠です

～日常生活に必要な物資から災害時の支援物資まで～

倉庫業法において「倉庫」とは、「物品の滅失若しくは損傷を防止するための工作物又は物品の滅失若しくは損傷を防止するための工作を施した土地若しくは水面であって、物品の保管の用に供するものをいう。」とされており、物流の結末点として生産者と消費者を結ぶ国民生活に欠かせない重要物資を大量かつ安全に保管する必要があることから、倉庫業を営むにあたっては「登録制」とするとともに、倉庫の施設設備基準の維持、倉庫管理主任者による適切な管理を義務づけることによって国民生活の安定を図っており、国土交通省でも立入検査等を通じて倉庫業の健全な発展に努めているところです。

また、さきの東日本大震災において、全国から届いた支援物資が保管場所の不足や不適切な仕分け作業等により被災者に行き届かないといった事態が発生し、有事における物流システムのあり方が問われたことから、国土交通省では地方自治体や倉庫事業者団体と連携し、南海トラフ巨大地震等の大規模災害の発生に備えた災害に強い物流システムの構築にも取り組んでいるところです。

こうした中、平成27年11月25日に傘下の会員事業者を対象に倉庫業の運営に関わる安全性や法令遵守などコンプライアンス確保を図ることを目的として外部講師等を招請しての福岡県倉庫協会福岡地区部会が福岡市にて開催され、福岡運輸支局から「倉庫業監査等について」をテーマに倉庫業監査の実施要領や流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律（総合物流効率化法）の概要、業務継続計画（BCP）の策定等について説明を行いました。

当日は、（一社）日本倉庫協会との共催による講演会も開催され、（株）日通総合研究所 興村 徹 取締役から「災害時に求められる支援物資物流の仕組み～必要な物資を必要な人に届けるには～」と題して講演が行われ、過去の災害において支援物資物流が失敗した理由や支援物資の物流の失敗を避けるにはどうしたら良いかといった点について講話があり、物流のプロである倉庫業者の役割の重要性について、指摘がありました。

折しも本年8月には、福岡県倉庫協会と福岡県との間において、災害時の支援物資の保管や物流専門家の派遣に係る協定が締結されたところであり、協定締結に向け

て調整を行ってきた当支局としても、今後の取り組みの参考となる点が多く、非常に有益な講演でした。

当支局と致しましては、今後とも福岡県や福岡県倉庫協会等関係の皆様と連携を図りながら、災害に強い物流システムの構築に向けた取組を進めて参ります。

(福岡運輸支局)

---

◆各地でバリアフリー教室（研修）開催！

～フェリー乗組員や小学生が体験しました～

九州運輸局では、誰もが高齢者・障がい者等に対し「お手伝いしましょうか」とごく自然に声をかけてサポートできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指しています。その一環として、高齢者・障がい者等の疑似・介助体験を通じてバリアフリーについての理解を深めてもらおうと、各地で「バリアフリー教室」を開催しており、今回、佐世保市と福岡市でそれぞれ開催しました。

11月25日（水）には、佐世保港において、フェリー乗組員を対象に、佐世保海事事務所と佐世保旅客船協会との共催で開催しました。佐世保海事事務所で毎年実施している旅客船乗組員研修において、バリアフリーに関する研修の要望があったもので、船を使用した研修は佐世保地区では初開催となりました。

まず、理学療法士の下釜講師により、「高齢者・障がい者等の特性と非常時における心理状態について」と題し、「人はなぜ逃げ遅れるのか」「危機的状況に陥ったときの行動」といった講義が行われました。

続いて、「フェリーみしま」の船内で高齢者疑似体験を行いました。体験セットを着用し、各関節の動きや視覚、聴覚を制限された状態となり、講師から「声かけは大きく明瞭に」「10cm程の段差などの具体的数値を言うと、より効果的」などのアドバイスを受けながら、車両甲板から火災が発生したという想定避難訓練などを行いました。体験者からは、「高齢者の苦労や不自由さを身をもって感じた。」「高齢者には聞き取りやすい声で対応したい」、などの感想が寄せられました。

12月2日（水）には、福岡市立千早小学校において、4年生117名を対象に、（公財）九州盲導犬協会、西日本鉄道（株）、福岡市、福岡運輸支局の協力のもと、九州地方整備局との共催で開催しました。

まず、九州盲導犬協会の指導のもと、視覚障がい者体験を行いました。2人一組で1名はアイマスクを着用し、1名が介助役となり、段差を作ったり、椅子を置いたりした体育館内のコースを誘導しながら歩きました。

続いて、体育館とグラウンドに別れて、体育館では、九州盲導犬協会による盲導犬の訓練の様子などを見学し、グラウンドでは、西日本鉄道（株）から用意頂いたノンステップバスを用いて、バスのしくみや車いすでのバスの乗り方などについての説明を受け、アイマスクを着用しての乗車体験もしました。参加した児童からは、「体の不自由な人の大変さが分かった。」「体の不自由な人がいたら席をかわってあげたいと思った。」などの感想がありました。

佐世保、福岡でも複数の報道機関の取材があり、バリアフリーに対する関心の高さがうかがえました。今後も九州運輸局では、このような取り組みを通じて、「心のバリアフリー」の推進に努めてまいります。

教室（研修）の様子は、下記URLからご覧頂けます。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_321\\_3.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_321_3.pdf)

(交通政策部 消費者行政・情報課、福岡運輸支局、佐世保海事事務所)

---

◆地元にある海事産業の魅力を知って!

～下関市立阿川小学校の全児童を対象に海事施設等見学会を開催～

下関海事事務所では、今年度3回目となる海事施設見学会を、さる11月25日、三菱重工業(株)下関造船所、(株)釜関フェリー及び(株)松岡の協力を得て開催しました。

今回は、下関市の北部にある市立阿川小学校という、全校児童数が31名の小規模校を対象に、教員9名共々全員に参加していただきました。

見学日程を三菱下関造船所で建造中の東京海洋大学の練習船【神鷹丸】の進水式に合わせ、外航フェリーと冷蔵倉庫の見学を組み合わせました。

そのため、地元市民でさえ殆ど見る機会のない進水式を間近に見ることができました。大きな船が船台を滑り降りていく様子を目の当たりにした児童たちからは、大きな歓声や拍手が挙がり、取材の新聞記者のインタビューにも、「進水式は迫力があって、船に乗ってみたいと思った」などと答えていました。

次に訪れた下関港国際ターミナルでは、停泊中の韓国籍旅客フェリー「星希(ソソヒ)」に近づくとつれ、その大きさに驚く児童もいました。またブリッジの見学では、担当者による操船方法やレーダーに映る関門橋や近くを航行する船の船影についての説明を興味深そうに聞き、見学時間一杯までブリッジ内を散策していました。船内で船酔いする児童もおり、小さなハプニングもありましたが、特別室の中まで見学でき、持参した弁当を船内のレストランで食べさせていただくなど、ちょっとした船旅気分を味わえたのではないかと思います。

初めての冷蔵倉庫体験で訪れた(株)松岡では、担当者から倉庫内に保管されているものが自分たちの身近なもので、この倉庫から自分たちの身近な場所へ届けられているという説明を聞き興味を持ったようでした。

また、マイナス24℃の冷蔵倉庫内の見学では全員が半ズボンやスカートという服装にもかかわらず、さすがは元気な子供たち、「寒い」と言いつつも楽しそうに濡れたタオルというわけにはいきませんが、持っていた手袋を振り回してみてもはしゃぐ児童もいました。

下関海事事務所では、引き続きこうした施設見学の機会を通して、地元にある海事産業の魅力を伝え、地域に根差す海事人材の確保・育成に取り組んでいきたいと思っております。

見学会の様子は次のURLからご覧ください。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_321\\_4.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_321_4.pdf)

(下関海事事務所)

---

◆船員の仕事、やってみませんか?

～鹿児島水産高校で出前講座実施～

鹿児島運輸支局は、内航船員への就職志望者を増加させる取組として、鹿児島県立鹿児島水産高等学校で出前講座を実施しました。これは、同校が鹿児島県で唯一の船舶職員養成施設であり、また、多くの離島航路や貨物船が就航する鹿児島の貴重な船員供給源であるため、内航海運業界が抱える若年船員不足の対応策として実施したものです。

聴講者は、同校の2年生・3年生及び専攻科の生徒52名で、当支局の担当者から、船は貨物を長距離・大量に輸送するのに適していて、国内貨物の3分の1を担っていること、地球環境にやさしいエコな輸送機関であることなど、内航海運の特徴を説明したうえで、船員の仕事は陸上の仕事と比べて給料が高い傾向にあることや、長期の休暇がとりやすいことなど、船員という職種の特徴を説明し、若い人材が求められていることを訴えました。

また、今回の出前講座にご協力いただいたマルエーフェリー株式会社の担当者からは、自社の安全運航に関する取組を紹介したうえで、今どのような人材が求められているのかを説明していただきました。

当日はNHK鹿児島放送局の取材もあり、講師・生徒や関係者は緊張気味でしたが、取材に応じた男子生徒は「自分も船員になろうと思いました」と答え、女子生徒は「給料が魅力的だと思いました。ずっと船員になりたかったので男子にも負けない船乗りになりたい」と答えてくれ、担当者一同、大変うれしく感じました。

鹿児島運輸支局では、先に実施したインターンシップ事業と出前講座を複合的に実施することで、より効果が高まると考えており、今年度の事業を検証したうえで、更に効果的な事業として実施していくこととしています。

出前講座の様子は次のURLからご覧になれます。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_321\\_5.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_321_5.pdf)

(鹿児島運輸支局)

---

## 2 お知らせ

### ◆今日から年末年始の輸送等に関する安全総点検が始まりました

国土交通省では、国民生活や経済活動を支える基盤である輸送機関等の「安全・安心」の確保が不可欠なことから、特に輸送機関等に人流・物流が大量に集中する年末年始は、ひとたび事故等が発生した場合には大きな被害となることが予想されるため、毎年12月10日から1月10日までの期間を定め「年末年始の輸送等に関する安全総点検」（以下「総点検」という。）を実施しています。

なお、「総点検」は、中曽根康弘氏が運輸大臣の時の昭和42年から開始しており、今年で49回目を迎えました。

九州運輸局においても、管内の鉄軌道交通、自動車交通、海上交通、利用運送、バス・トラックターミナルや自動車道等の事業者、約1万3千事業者に対し、自主点検表を郵送し「総点検」への積極的な取り組みをお願いしています。

また、本局・各運輸支局・海事事務所において期間中、以下のとおり事業者等への立入り点検を実施することとしています。

#### ○事業者への立入り点検

・鉄軌道索道関係12社・自動車関係18社・船舶関係73社（123隻）・トラックターミナル2社

#### ○自動車の街頭検査9回

今年の「総点検」のチラシはこちらからどうぞ。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_321\\_6.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_321_6.pdf)

(総務部 安全防災・危機管理調整官)

---

◆「公共交通事故被害者等支援フォーラム」を開催します

～12月15日（火）13時30分～16時30分：九州運輸局7階海技試験場にて～

国土交通省では、平成24年に公共交通事故被害者等支援室を設置して公共交通事故により被害に遭われた方への支援を行っており、安全意識の啓発や公共交通事業者による被害者等支援計画の策定をより一層進めていくため、全国の各運輸局において公共交通事業者や業界団体、一般の方を対象としたフォーラムを開催しています。

今回、九州で初めて次により開催し、公共交通事故被害者等支援の取組の紹介などを行います。

I 日 時：平成27年12月15日（火）13：30～16：30  
（受付開始：12：45～）

II 場 所：福岡合同庁舎新館7階九州運輸局海技試験場  
（福岡市博多区博多駅東2-11-1）

III プログラム：

1. 講 演「被害者の立場から望むこと」

鉄道安全推進会議会長、明石歩道橋犠牲者の会会長 下村 誠治 氏

2. 説 明「公共交通事故被害者等支援の現状」

国土交通省総合政策局安心生活政策課企画官 奈良 和美

3. 講 演「安全対策にかかる取組について」

九州旅客鉄道株式会社安全創造部担当課長 吉岡 純司 氏

IV 参加募集：120名（参加費無料）

V 申込締切：平成27年12月14日（月）17：00

（別紙「申込書」にご記入頂き「FAX」または「電子メール」でお申し込み下さい。なお、会場の関係上、希望者が定員を超えた場合は、参加をお断りする場合がありますので、予めご了承下さい。）

「申込書」はこちらからダウンロードしてください。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/osirase\\_321\\_7.doc](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/osirase_321_7.doc)  
（交通政策部 消費者行政・情報課）

---

◆クルマとあけよう 未来の扉～福岡モーターショー2015が間もなく開催～

昨年も多くの来場者で賑わった「福岡モーターショー」が、今年も来週金曜日の12月18日から4日間、マリンメッセ福岡・福岡国際センター・福岡国際会議場にて開催されます。

今年のテーマは「クルマとあけよう 未来の扉」と題し、日本や外国の自動車メーカーが最新の技術を駆使した未来を切り拓くクルマが展示されるとともに、救急車やパトカーをはじめとする「はたらくクルマ」の展示や体験型シミュレーター、更にはご当地や各国のグルメコーナーも充実し、モーターファンのみならず子どもや

女性、ファミリーまで多くの方が楽しめます。

入場料も高校生以下は無料となっています。ぜひとも皆さんで会場へお越し下さい。

「福岡モーターショー2015」の開催概要、出展者紹介、企画・イベントなどは、次の公式ホームページからご覧ください。

<http://www.fukuoka-motorshow.jp/>

※国土交通省は「福岡モーターショー2015」を後援するとともに、九州運輸局も「福岡モーターショー実行委員会」のメンバーとして参画しています。

(自動車技術安全部 技術課)

---

◆広報誌「国土交通」(2015.12-2016.1)135号が発行されました  
～特集「自動運転とビッグデータの活用」～

国土交通省の広報誌「国土交通」135号が発行されました。今号は特集「自動運転とビッグデータの活用」のほか、「BRT(バス高速輸送システム)」や「外国船舶監督官」関係の記事も掲載されています。

無料の広報誌「国土交通」は隔月発行で、九州運輸局や運輸支局等に備置しているほか、国土交通本省のホームページにも掲載されています。次のURLからご覧ください。

[http://www.mlit.go.jp/page/kanbo01\\_hy\\_004393.html](http://www.mlit.go.jp/page/kanbo01_hy_004393.html)

(総務部 広報対策官)

---

### 3 九州運輸局ホームページアップ情報

#### --- 報道発表 ---

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#HOUDOU>

#### --- お知らせ ---

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#OSIRASE>

#### --- 更新情報 ---

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#KOUSIN>

//////// 編集部より //

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。

編集部では、運輸と観光に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

//

---

■本メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/backnumber-top.htm](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/backnumber-top.htm)

■本メールマガジンの配信中止やメールアドレスの変更などはこちらから

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou\\_mail.html](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou_mail.html)

■九州運輸局メールマガジン編集部(九州運輸局総務部内)

mail: qst-mm-kyushu@ml.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

---